

新源泉湧出を祝う 大江・柳川温泉で発表会 紅葉シーズン向け 今月中に仮営業へ

東日本大震災の影響で自噴が止まった大江町の柳川温泉で5日、新たに町が採掘した源泉の湧出（ゆうしゅつ）発表会があった。紅葉シーズンに向け、町は今月中にも仮営業を始めたいとしている。

発表会には地元住民や町、採掘を請け負った日本地下水開発の関係者が集まり、新源泉の湧出を祝った。町によると、温泉の温度は60度で、湧出量はポンプでのくみ上げと合わせ毎分300㍓。専門機関の検査では、硫黄やナトリウムなどが含まれ、旧源泉の泉質とほぼ同じという。

県の許可を得た上でポンプを設置し、12月中の営業再開を目指す。紅葉の名所でもある古寺溪谷（神通峡）が近いことなどから、今月中にも内湯のみの仮営業を始めようと準備中だ。

渡辺兵吾町長は「温泉の愛好者には宮城県の人も多い。温泉再開で震災復興に力を与え、東北を元気づけたい」と話した。



「飲める温泉」としても知られる柳川温泉。湧出発表会では試飲する人も＝大江町柳川